



農子

○待合せ時を遠えし朧月
春寒や薄着を悔やみ足早に
寒風の戦禍の子等や白蒲公英



富子

戦いを止めよと諭すマクノリア
春は来ず弾が引き裂く黄と青と
つちふるやかか國は血と涙ふる

初江

○のどけしや猫の細道坂の街
野遊の帰りいつもの道の駅
あたたかや「幸の鐘」遠く聞く

弘

○梅東風に地蔵の頭巾ゆらめけり
○行商のマイク響きて山笑ふ
たんぽぽの道をスキップ下校の子

千代

富江

遅刻の子いつも会う坂桜坂
卒業歌深夜ラジオに友垣を
挑戦は老いて投げ釣り桜鯛

郁子

○里山に光放てる白木蓮
○ちいちゃんの小さき指先梅一輪
乾杯のワイングラスに春の月

酔花

猫の尾が絡めて帰るおぼろ月
桜下にはるいとある絵巻物
好物のミカンを庭の枝にさす

美貴

○筆庄に思ひ込めしか受験絵馬
遠まはりして帰らうか春の宵
暖かや今日も笑顔の主治医おて

えり

らくだ山春分射光手を合わせし
梅の枝群れ来て無心春目白
城の跡労の重みも木瓜一つ

志津子

○春暁やうつつに妣の声を聞き
踏まれても踏まれても尚落椿
菜の花は妹でした前世では

味元 昭次 作品

逆縁の婆も微笑む花の山
土佐湾の夕日を眺む山桜
少年のギブスの白し花の山

★次回市民句会

【開催日時】

令和四年四月二十七日(水)
午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

